

日本仏教社会福祉学会 ニュースレター No.32

CONTENS

- ・ 令和元年度 第2回 理事・役員会報告
 会員異動 / 令和2年度事業計画・予算案
 令和元年度 第54回大会（浅草寺）について
 令和2年度 第55回大会について
 理事選出選挙結果・次期理事役員体制
- ・ 令和元年度 第54回大会 大会報告 総会報告 など

日本仏教社会福祉学会 事務局

〒360-0194
 埼玉県熊谷市万吉1700
 立正大学 社会福祉学部内
 TEL：048-536-1328（代）
 FAX：048-536-2522（代）
 MAIL：info.jabsws@gmail.com

令和元年度 日本仏教社会福祉学会 第2回 理事・役員会報告

日時：令和元年9月10日（火）

9：00～10：30

場所：浅草寺 五重塔院

出席 代表理事 清水海隆

個人理事

石川到覚 栗田修司 新保佑光 長崎陽子

長谷川匡俊 藤森雄介 宮城洋一郎

鷺見宗信

団体理事

宮崎牧子 長上深雪 吉村彰史

監事 梅原基雄

事務局長 吉村彰史（団体理事兼任）

欠席

個人理事 落合崇志 田宮仁 野田隆生

団体理事 渋谷哲 小島恵昭 池上要靖

監事 山口幸照

議事報告

事務局：開会の宣言。出席理事の確認。

1 定足数の確認

理事役員数の2分の1以上が出席し、理事会規定第6条に基づき理事会は成立した。規定に基づき、代表理事を議長とした。

2 議案

第1号議案：会員の異動について

（1）入会会員の承認について

次の個人会員4名の入会の申し出が説明され、承認された。

○一般会員

宮本雄司（社会福祉法人同和園所属 京都市百々老人デイサービスセンター生活相談員）

○学生会員

三上民喜（龍谷大学大学院 社会学研究科 博士後期課程 社会福祉学専攻）

淡路和孝（龍谷大学大学院 社会学研究科 博士後期課程 社会福祉学専攻）

中村明美（龍谷大学大学院 社会学研究科 博士後期課程 社会福祉学専攻）

（2）退会会員の承認について

次の個人会員4名の退会について説明され、承認された。

佐藤文哉・保科和久・稲場圭信・古井秀法

以上のことから、2019年9月10日現在の会員数は以下の通りとなった。

個人会員 196+4-4=196名

団体会員 23団体 計 219会員

（3）会員種別変更について

学生会員に変更 前廣美保・安藤徳明

賛助会員に変更 宇都榮子・奈良修三・藤田和正・丹羽正子・千草篤麿

実践会員に変更 土賀恵心

これにより、令和元年度 個人会員の内訳は以下の通りとなった。

一般会員186名、学生会員5名、賛助会員4名、実践会員1名（合計196名）

第2号議案:令和2年度事業計画(案)ならびに予算(案)

まず事業計画(案)について、事務局より以下の通り説明された。

1. 理事会・総会開催予定
令和2年度理事会
第1回 令和2年4月18日(土)
(於:立正大学 品川キャンパス)
第2回 日程・場所 検討中
令和2年度総会 日程・場所 検討中
 2. 年報刊行事業
令和2年度 第51号刊行
 3. 研究助成事業
 - 1) 仏教社会福祉勉強会の開催
 - 2) 学会賞(学術賞・奨励賞)授与事業
第8回学会賞(対象期間:平成30年1月1日～令和2年12月31日)
※積極的な推薦をお願い致します。
 4. 第55回学術大会開催事業
検討中
 5. 広報事業
 - 1) ニュースレターの発行(年2回)
 - 2) ホームページ維持・管理
(株式会社 国際文献社)
 - 3) メーリングリストでの情報提供
 - 4) 各仏教系団体等への勧誘
 - 5) 他学会等との交流・協力
 6. 研究事業
 - 1) 仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト
(委員長:新保祐光)
 - 2) 仏教社会福祉学研究史(仮)プロジェクト
(委員長:池上要靖)
 - 3) 「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」プロジェクト
(委員長:藤森雄介)
 7. 学会事業担当
 - 1) 担当理事及び委員会
 - ① 年報編集担当理事:栗田修司
 - ② 研究担当理事:
 - ・ 仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト:新保祐光
 - ・ 「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」プロジェクト:藤森雄介
 - ・ 仏教社会福祉勉強会:長上深雪・梅原基雄
 - ・ 『仏教社会福祉学研究史(仮)』編集刊行委員会:池上要靖
 - 2) 事務局:吉村彰史
- 次に、上記計画に対する予算(案)につい

て、事務局より下記(次ページ)の表の通り説明された。

収入の減額は、会員数の若干の減少と、会員種別の変更による会費の減額を反映させているからである。しかし、種別を増やしたのは会員数を増やすためでもある。今後、広報を充実するなどして会員数を増加させていきたい。

支出の減額は、交通費を現況に合わせたこと、また理事選挙事務費が今回は計上されないことによる。

以上の予算(案)が承認された。

第3号議案:令和元年度第54回大会および令和2年度第55回大会について

理事会冒頭に浅草寺福祉会館主任の平田真紹氏よりご挨拶があり、金田寿世氏より大会スケジュール、会場等についての説明があった。

また、議長より、第55回大会については検討中であること、関西・関東の順で行くとすれば、次は特に関西の理事・役員を中心に五輪後の開催を検討していただきたい旨、説明があった。

第4号議案:理事選出選挙結果ならびに次期理事・役員構成について

1. 理事選出選挙の流れ

平成31年4月20日 選挙管理委員会設置(藤森雄介・百瀬ユカリ・吉村彰史)

令和元年6月7日 選挙関連書類一式を発送

7月6日 投票ㄨ切

7月19日 開票

7月25日 結果を理事・役員に報告後、代表理事と調整

9月10日 理事会で顔合わせ及び総会にて承認

2. (確認)日本仏教社会福祉学会理事選出規程(抜粋)

第四条(理事の構成および定員)

1. 本学会の理事は、個人会員選出理事(以下、個人理事)と団体会員選出理事(以下、団体理事)とする。なお、団体理事は、当該団体の代表者にこだわらず、学会会員たる者とする。

2. 理事定員は18名とする。理事の選出にあたっては、a. 選挙による選出枠を10名、b. 被選出者による推薦枠を8名以内とする。

a. 選挙による選出枠のうち、個人理事を7名、団体理事を3名とする。

b. 被選出者による推薦枠のうち、個人理事と団体理事の比率は特に定めないが、地域的配分が考慮されることが望ましい。

第五条（理事選出の方法・手順・理事役員会の構成）

1. 個人理事の選出にあたっては、各個人会員が2名を連記する無記名投票により得票数の多い順により選出する。
2. 団体理事の選出にあたっては、各団体会員が2団体を連記する無記名投票により得票数の多い順により選出する。
3. 個人会員・団体会員別に選挙を実施し、得票数の上位者より定数までを理事候補者とし、選出された理事候補者からの推薦理事候補者と併せてこれを総会の議に諮る。
4. 代表理事は総会の承認を得た理事の互選によって選出する。
5. 監事は、理事会の推薦により決定する。そ

の職務の内容から、少なくとも1名は本会事務局の所在地に近在の者が望ましい。

3. 理事候補者(案)

(1) 定員枠（理事選出規程より要約）

理事構成	選挙選出枠	推薦選出枠	合計
個人理事	7名	地域的配分考慮	
団体理事	3名		
合計	10名	8名以内	18名

(2) 手続き（原則）（理事選出規程より）
 「得票数の上位者より定数（選挙による選出枠）までを理事候補者とし、選出された理事候補者からの推薦理事候補者と併せてこれを総会の議に諮る。」

令和2年度 日本仏教社会福祉学会 収支予算書(案)

令和2年4月1日～令和3年3月31日

収入の部

(前年度)

項目	令和2年度予算	31年度予算	増・減(▲)	摘要
前年度繰越金	35,800	32,200		
個人会員費	1,515,000	1,600,000	▲ 85,000	一般8,000円×185名、学生3,000円×5名、賛助5,000円×5名、実践5,000円×1名
団体会員費	690,000	690,000	0	30,000円×23口
貯金利子	1,000	1,000	0	郵便口座利子等
雑収入	50,000	50,000	0	年報売上代金等
収入計	2,291,800	2,373,200	▲ 81,400	

支出の部

項目	令和2年度予算	31年度予算	増(▲)・減	摘要
大会助成費	400,000	400,000	0	第55回大会助成
年報刊行費	1,000,000	1,000,000	0	第51号印刷費（49号税込791,640円(733,000円)）
研究費	100,000	100,000	0	仏教社会福祉勉強会の際の経費等
会議費	20,000	20,000	0	理事会会議費等
交通費	100,000	150,000	▲ 50,000	諸会議交通費等(H30度76,340円)
通信運搬費	170,000	150,000	20,000	郵便及宅急便費(H30度150,444円)
事務費	50,000	50,000	0	文具消耗品及封筒印刷等
謝金	360,000	360,000	0	事務員謝金
雑費	5,000	5,000	0	振込手数料等
学会賞賞金	0	0	0	第7回学術賞・奨励賞 次回令和2年度
学術会議分担金	30,000	30,000	0	日本社会福祉学系学会連合
ホームページ維持費	33,000	32,400	600	ホームページ更新費
理事役員選出選挙事務費	0	30,000	▲ 30,000	理事改選・次回令和4年度
予備費	10,000	10,000	0	
支出計	2,278,000	2,337,400	▲ 59,400	

収支総合計

項目	令和2年度予算	31年度予算	増(無)・減(▲)	摘要
収入計	2,291,800	2,373,200	▲ 81,400	
支出計	2,278,000	2,337,400	▲ 59,400	
次年度繰越金	13,800	35,800	▲ 22,000	令和3年度へ

※学会特別基金①1,000,000円(平成20年7月23日付にて郵便定額貯金で保管)

(3) 理事候補者

選挙結果は以下の通りであった。

個人名	得票
清水海隆	11
新保祐光	11
石川到覚	9
藤森雄介	9
長谷川匡俊	9
栗田修司	6
宮城洋一郎	6
長上深雪	6
池上要靖	5
古宇田亮修	3
村井龍治	3
渋谷哲	2
吉村彰史	2
佐賀枝夏文	2
谷山洋三	2
奈倉道隆	2
落合崇志	2
小笠原慶彰	1
小山典勇	1
佐々木隆夫	1
清水教恵	1
中野東禅	1
野田健	1
村上逸人	1
吉水岳彦	1
鷺見宗信	1
山口幸照	1
小島恵昭	1
長崎陽子	1
田宮仁	1
梅原基雄	1

投票件数 52
有効投票数 104

個人会員選出理事候補者（得票順。7名）

- 清水海隆⑪
- 新保祐光⑪
- 石川到覚⑨
- 藤森雄介⑨
- 栗田修司⑥
- 宮城洋一郎⑥
- 池上要靖⑤

※長谷川会員⑨は名誉会員推薦基準内規に該当
※長上会員⑥は龍谷大学の団体理事担当者にまわるため個人理事は辞退

※理事会推薦 長崎会員①を個人理事に選出

団体会員選出理事候補者（得票順）（カッコ内

団体名	得票
大正大学	4
龍谷大学	3
淑徳大学	3
立正大学	3
駒澤大学	2
同朋大学	2
佛教大学	2
大谷大学	2
日蓮宗現代宗教研究所	2
身延山大学	1
浅草寺	1
記載なし	1

投票件数 13
有効投票数 25
無効票 1

は現担当者名。新担当者は後日)

- 大正大学④（宮崎）
 - 龍谷大学③（長上）
 - 淑徳大学③（渋谷）
 - 立正大学③（吉村）
- ※得票数同数のため4団体となる。

監事候補者

- 梅原基雄会員（元淑徳短大）
- 山口幸照会員（密教福祉研究所）

*代表理事候補者は、慣例では個人会員選出理事中の得票数上位者より、新旧理事懇談会で決定して、総会に諮る手順となる。

⇒清水理事と新保理事が同数であり、協議を経て、清水理事が代表理事候補者となった。

（個人理事8名、団体理事4名、幹事2名体制）

4. 役員体制

研究事業担当理事

- 1) 仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト（委員長：新保祐光）
- 2) 仏教社会福祉学研究史（仮）プロジェクト（委員長：池上要靖）
- 3) 「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」プロジェクト（委員長：藤森雄介）

学会事業担当

- 1) 担当理事及び委員会
 - ① 年報編集担当理事：栗田修司
 - ② 研究担当理事：
 - ・仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト：新保祐光
 - ・「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」プロジェクト：藤森雄介
 - ・仏教社会福祉勉強会：長上深雪・梅原基雄
 - ・『仏教社会福祉学研究史（仮）』編集刊行委員会：池上要靖
- 2) 事務局：吉村彰史

第5号議案:学会賞表彰への問い合わせについて

昨年度の学会賞(奨励賞)表彰(頼尊恒信会員『真宗学と障害学—障害と自立をとらえる新たな視座の構築のために』(生活書院、2015年))について、上原英正会員より問い合わせがあった。

学会賞の審査にあたっては、本件の進言を踏まえてより丁寧な審査をすること、またこうした学会賞に関する疑義に関しては随時受け付け回答するこ

と等を理事会にて確認した。また理事会当日、清水代表理事、新保理事、藤森理事が上原会員との面談の機会を設けた。
※本件は継続して理事会にて検討・対応していく。

3 報告事項

①各担当理事の報告

(年報編集・査読) 栗田担当理事より、以下の通り報告された。活動進捗状況報告については、
・『年報』50号の発行について大会原稿(事務局関係)は校正中。投稿論文は、2本の投稿があったが、1本は査読後に辞退され、もう1本は第1回査読終了し、執筆者に修正を依頼中。返却後、編集委員会にて掲載可否について検討予定。書籍紹介については、1本は印刷所にすでに提出、もう1本は原稿依頼済み。

・投稿原稿のフローチャートについては、委員会で検討の必要あるため「事業・活動予定」に記載。
・事例研究の論文作成方法については継続課題だが、学術大会報告原稿の事前倫理審査を始めたことで一定の改善を見たと考えている。

活動予定については、
・『年報』50号発行にむけての編集作業と発行
・年報編集委員会の開催(令和元年9月11日予定、於:浅草寺福祉会館)
・『年報』51号発行にむけての編集作業
・投稿原稿から掲載までのフローチャートの明記等<継続・9月11日編集委員会にて検討予定>
・論文執筆のためのサポート体制についての検討<継続・9月11日編集委員会にて検討予定>
・特に事例研究の論文作成方法に関して
・査読委員の委嘱・任期等についての検討<継続・9月11日編集委員会にて検討予定>

その他、編集委員・査読委員の任期・交代については次回春の理事会をめぐりに確認すること、また書籍紹介やその掲載広告についても検討した。

(仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト)

ト) 新保担当理事より、以下の通り報告された。活動進捗状況報告については、
・今年度は淑徳大学の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究」の最終年度のため、その研究協力を行っている。石川理事、新保ともに今月中旬の締め切りに合わせ、とりまとめを行っている。
・淑徳大学の事業とは別に、台湾の寺院が社会貢

献活動の拠点となっている場所の見学と聞き取りをおこなった。

・大正大学大学院における臨床宗教師養成にかかわるなかで、臨床宗教師と仏教ソーシャルワークの関連等について検討をおこなった(臨床宗教師講座受講生に対し、傾聴のみでなくマイクロレベルの直接援助に関わる知識、および宗教的価値に基づく気づきをもたらす語りかけ等が有用か、またそれが臨床宗教師の専門性と矛盾しないか等の議論を行っている)。そのなかで仏教ソーシャルワークとは何かをより明確にしたいと考える。

活動予定については、
・淑徳大学の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究」への研究協力をもって、その継続研究に伴う体制づくりの再編成を検討する。
・今後、本学会員で地域ベースの幅広いソーシャルワーク領域の研究者も加えたアジア仏教ソーシャルワークの検討とともに、引き続き日本仏教ソーシャルワーク研究の深化に向けて進めていく。
・臨床宗教師の養成に関わるなかで、仏教ソーシャルワークとは何かの検討を継続していく。
・28年度に終えた科研の成果を投稿中である。

(「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」(略称:「国内開発」) 藤森担当理事

より、以下の通り報告された。活動進捗状況報告については、
・「東日本大震災を契機とした地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教寺院・神社など)との連携に関する調査」について、現在、調査報告書を作成中(学会大会までの発行を目指していたが、現在、最終稿編集中)。また、関連する事例をまとめた報告書の作成も同時に進行中。

・「仏教社会支援活動プラットフォーム(BPH)」について、登録状況は足踏み状態だが、7/31には日蓮宗宗務院より詳細な説明を求められる等、関心を持っていただく手ごたえはある。宗派教団の理解を進める為、全日本仏教会の賛助会員に淑徳大学アジア国際社会福祉研究所として加盟申請を行った。
活動予定については、本研究を推進してきた「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」が本年度で最終年度となる為、その最終報告の機会も兼ねて、12月20日、21日の両日、第4回 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所学術フォーラム『仏教ソーシャルワークの旅 ～アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性を探る～』を開催する。
会場は、日本ソーシャルワーク学校連盟研修室である。

「**仏教社会福祉勉強会**」担当梅原幹事・長上理事より、2月は梅原会員を講師として勉強会を開催することができたが、今後も体制を整えながら随時開催していきたい旨、報告された。

②事務局報告 令和元年度総会について

事務局より、総会が予定通り9月10日16時より開催する旨が報告された。

③その他 報告事項

1) 日本社会福祉系学会連合「多様性時代における学会による合理的配慮と支援に関する実態調査(2019年)」結果概要について

<調査目的> 近年多様なニーズをもちながら研究に従事している人々が増加している。このような多様な状況にある人々の研究活動を支援するために、社会福祉系の学会がどのような合理的配慮・支援を行っている(検討している)のかを明らかにする。

<調査方法> 社会福祉系加盟学会(22学会)に対して、メールにより調査依頼状および調査票を送付し、電子ファイルに書き込むかたちで事務局まで返送してもらった。調査実施時期は2019年7月～8月である。

<調査内容> 調査は、障がい者、ひとり親家庭、女性、若手、留学生、学生・院生、定年退職者、生活困窮者、被災者、現場実践者、その他(対象を設定しない場合も含む)の各対象ごとに、対象者の資格要件、合理的配慮・支援の具体的内容、実施にむけた検討課題、について記述してもらった。

<倫理的配慮> 一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程にしたがって実施した。調査結果の開示にあたっては、特に許可を得ない限り学会名を公表しないことを明記した。本調査の趣旨を書面において説明したうえで、調査票記入用紙の返送をもって同意とみなした。

<回収状況> 22学会のうち、18学会より回答を得た。

<主要な調査結果>

1) 合理的配慮・支援を実施している対象は、「学生・院生」が最多であり、14学会(+検討中1学会)であった。続いて「障がい者」8学会、「若手」6学会、「留学生」6学会(+1学会が検討中)、「現場実践者」5学会(+3学会が検討中)、「被災者」5学会と続いている。また、「その他」で「育児中の保護者」に対する支援が4学会から報告されている。

2) 「学生・院生」への支援では、大会費の減免が8学会と最も多く、年会費の減免が2学会、両者とも減免が4学会となっている。

3) 「障がい者」に対しては、希望者への大会時の手話、要約筆記などの情報保障のほか、大会時のバ

リアフリーのチェックや当事者・家族に対して大会参加費の減免をしている学会がある。

4) 「若手」については、年齢に関係なく、研究歴の浅い人であることを資格要件としている学会がみられる。合理的配慮・支援の内容には、ワークショップ、研究助成、学会(奨励)賞などがある。

5) 「留学生」に対しては、学生会員と同様の減免をしているところが多いが、就職せずに母国に帰国した留学生について、年会費1年分の支払いで5年間会員の権利を得られるよう配慮している学会がある。

6) 現場実践者では、「準会員」などの資格で年会費を減免している学会があるほか、研究助成金の提供や、「研究報告」と「実践報告」に分けて発表の場を確保するよう配慮している学会もある。

7) 「その他」では、「育児中の保護者」である会員に対して、大会時に託児サービスを実施している学会が4学会ある。

8) 「被災者」では、年会費の減免が3学会でなされている。

9) 「定年退職者」に対しては、2学会で年会費の減免/割引が実施されている。

10) 「生活困窮者」「被災者」等で「申し出」によって適宜、対応をしている学会がある。

<課題>

- ・おかれている状況が多様であることから、属性カテゴリーなどで一律に配慮するのではなく、研究遂行上の困難やニーズによる配慮が必要ではないかという意見がある。

- ・小規模であるため、相談があり次第、適宜対応している学会もある。

- ・属性カテゴリーによって検討中であると回答する学会が多く存在する。

2) 第4回 淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所 国際学術フォーラム「仏教ソーシャルワークの旅ーアジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性を探る」2019年12月20-21日

於：日本ソーシャルワーク教育学校連盟研修室
20日 アジア仏教ソーシャルワークの歩み、これからの道

21日午後 「indigenizationインディジナイゼーション」は答えになるのか グローバル定義” Indigenous Knowledge” の意味

問題提起： 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所 (ARIISW)

カナダの理解： ニコル・イヴェス(カナダ マギール大学)

アジアの理解： ベトナム、スリランカ、タイ、モンゴル、ブータン、日本

3) 西本願寺医師の会「看護師・介護職のための仏教講座～臨床現場における苦しみとその解放～

2019年10月12日（土）13時～17時
於：本願寺津村別院（北御堂）津村ホール
講演1「苦しみとは何か？」月江教昭（那珂川病院緩和ケア部長／浄土真宗本願寺派真教寺住職／西本願寺医師の会世話人）
講演2「苦しみからの解放」出口湛龍（ビハラー総合施設理事長／浄土真宗本願寺派稱名寺住職）
講演3「あそかビハラー病院での緩和ケア」大嶋健三郎（あそかビハラー病院院長／西本願寺医師の会顧問）

長谷川匡俊氏（淑徳大学名誉教授）

16:00 日本仏教社会福祉学会総会

17:30 情報交換会

於：台東区民会館9階 特別会議室

【第2日目 9月11日(火)】

全体会 於：浅草寺普門会館3階

9:15 日本仏教社会福祉学会学会奨励賞受賞発表「真宗学と障害学—障害と自立をとらえる新たな視座の構築のために」頼尊恒信氏（滋賀県立大学非常勤講師）

第一分科会 於：浅草寺普門会館2階

10:00 「ケアマネ相談・ケアプランチェックの業務についての考察（悩んでいるケアマネにむけて）」

佐伯典彦（名張市役所福祉こども部地域包括支援センター）

10:30 「大都市地域における単身高齢者の社会的孤立への支援課題～仏教的アプローチとの協働をめざす行政課題を考える～」

常松洋介（豊島区保健福祉部）

11:00 「東日本大震災を契機とした、寺院の社会的活動について～岩手県釜石市で開催されている章駄天競争における地域連携の事例から～」

○渡這義昭（淑徳大学アジア国際社会福祉研究所）・藤森雄介（同）

11:30 「浅草寺等寺院並びに駅等設置の福田会投入銭箱の意義と福田会財政～福田会創設期から昭和戦前まで～」

○宇都築子（福田会育児院史研究会）・菅田理一（鳥取短期大学・福田会育児院史研究会）

第二分科会 於：浅草寺普門会館3階

10:00 「日本語における『しあわせ』概念の変遷」

○前廣美保（龍谷大学大学院社会学研究科博士後期課程・武蔵野大学）・栗田修司（龍谷大学）

10:30 「消防職員の惨事ストレス対策に関する研究～ソーシャル・サポートに着目して～」

○三上民喜（龍谷大学大学院社会学研究科博士後期課程）・栗田修司（龍谷大学）

11:00 「地域におけるがん患者同士の見守りシステムに関する研究」

○中村明美（龍谷大学大学院社会学研究科博士後期課程）・栗田修司（龍谷大学）

令和元年度 日本仏教社会福祉学会 第54回 学術大会報告

2019年9月10日(火)～11日(水)

浅草寺（東京都台東区浅草）

大会事務局：浅草寺福祉会館

<大会日程>

【第1日目 9月10日(火)】

10:00 受付開始

受付 浅草寺五重塔院 信徒休憩室前

10:40 物故者追悼法要出席者集合

11:00 物故者追悼法要

導師 浅草寺貫首 田中昭徳大僧正

於：浅草寺本堂

11:30 昼食・休憩

13:00 開会式 於：浅草寺五重塔院信徒休憩室
基調講演〔公開〕

「江戸と浅草寺～都市と寺院の接近プロセス～」

壬生真康師（浅草寺教化部執事・勸学所長）

14:00 シンポジウム〔公開〕

「寺院による福祉活動～浅草寺を中心に～」

コーディネーター

宮城洋一郎氏（種智院大学特任教授）

シンポジスト

大久保秀子氏（浦和大学副学長）

伊藤直文氏（大正大学心理社会学部長）

石川到覚氏（大正大学名誉教授）

指定発言者

森下智子氏（司源寺・ファミリーハウスぞうさんのおうち）

吉水岳彦氏（光照院・ひとさじの会（社会慈業委員会））

コメンテーター

令和元年度 日本仏教社会福祉学会 総会報告

浅草寺にて開催された第54回大会の初日、9月10日16時より、令和元年度総会を開催した。

鷲見宗信理事が議長に選出され、平成30年度事業報告及び決算、令和2年度事業計画及び予算について議事が進められた。梅原監事による会計監査も報告された。

また、総会に先立ち行なわれた第2回理事・役員会にて代表理事候補に選出された清水海隆会員が、引き続き代表理事に承認された。

報告事項としては、会員の異動や担当理事・役員会からの報告がなされた。

また来年度、第55回大会の詳細は未定であるが、関西地方での開催予定で調整中であることが報告された。

審議された議案4件、報告事項5件については、全件が承認された。

発行所、発行年、ページの順とする。

⑤図表については、掲載順に番号と題名を付し、掲載箇所に添付する。

(7)執筆者が抜刷を希望する場合は実費とする。ただし「基調講演」「シンポジウム」等の学会より依頼した執筆者には、1編につき抜刷30部を贈呈する。

※詳しい投稿要領は学会HPからも確認できます。投稿をご希望の方は、事務局までご一報いただければ詳しくご説明いたします。

メーリングリスト登録に

ご協力ください

事務連絡や災害時の連絡など、すでに運用が始まっています。未登録の方はぜひ、お早めに下記アドレスまでご一報ください。

info. jabsws@gmail.com

『日本仏教社会福祉学会年報』

投稿論文募集！

(1)本誌に発表する論文等は、未発表のものに限る。

(2)投稿の種類は、研究論文・研究ノート・実践報告・海外情報・資料紹介・図書紹介・その他とし、掲載ジャンルは編集委員会において決定する。

(3)本誌の原稿枚数は、原則として研究論文は20,000字以内、その他は16,000字以内とし、縦書き・横書きとする。

(4)投稿は自由投稿および依頼投稿とし、自由投稿の締め切りは毎年1月末日とする。

(5)投稿に際しては、印刷原稿3部および電子媒体を学会事務局へ提出する。学会事務局は、提出が確認された後、投稿者へ「受付証」を発行する。

(6)執筆上の細目は原則、次の通りとする。

①論題名、執筆者名、所属を明記し、論題名と執筆者名には欧文を添付する。

②本文は常用漢字、現代かなづかいを使用する。

③長文の出典引用の場合は、二字下げて記述する。引用・参考文献の明記については、本文中に脚注番号を付し、本文の最後にまとめて列挙する。

④引用・参考文献の記述は、脚注番号、編・著者名、書名または論文名、所収書名また巻・号、

編集後記

大変遅くなりましたが、ニュースレター32号をお届けいたします。

浅草寺様、ならびに浅草寺福祉会館様で開催された大会は、本堂での厳かな法要から始まり、一般の参加者も多数参集された中での熱のこもった講演・シンポジウム、そして多岐にわたる研究発表と、皆さまのご協力のおかげで無事に円成することができました。関係の皆さまに深く感謝いたします。

新型コロナウイルスによる病魔、それによる家庭や学校、社会・経済への各種の悪影響の連鎖が、少しでも早く解消することを心より念じあげざるばかりです。皆さまもどうぞ、お身体ご自愛ください。

身体だけでなく、心の健康までもが脅かされています。世界人類の共業の故であるならば、今一度、私たちひとりが生きざまを反省しなければいけないのかも知れません。皆さまの常日頃の心がけ、お念仏の口ずさみ、唱えるお経の一文字一文字の功德が遍満し、みほとけの世界が実現され、仏教社会福祉の営みがますます令和の御代に華開き、香り高く感じられますように。自利利他円満にして吉祥成就を心よりお祈りいたします。(事務局)